

# テーマ展「屏風的美」関連講座

## 「屏風のいろは」

2 / 25 (土) 午後 2 時から

県立美術館 講堂・常設展示室

下村観山「寿星（じゅせい）」 大正4年頃 六曲一双



左隻 168×370.2cm

- ・「寿星」とは、寿命を司る南極老人星のことであり、北宋時代の道士である「寿老人」がその化身といわれる。
- ・日本では七福神の一人とされ、白髪の長身長頭、経のついた杖を携えて団扇を持ち、1500年の鹿を伴った姿で描かれ、古来延年長寿の吉祥画題となっている。



右隻 168×370.2cm

### 【下村 観山】

- ・明治6年和歌山市に生まれる。
- ・明治15年頃より狩野芳崖に師事し、明治19年に橋本雅邦に入門。
- ・大正3年に日本美術院を再興し、院展を中心に活躍。
- ・古典に通じ、写実的な描写と琳派などのやまと絵表現を融合させた装飾的な作風で多くの優品を描く。
- ・昭和5年に横浜で没、57歳。

- ・今回の講座では、日本絵画の伝統的な形式「屏風」の鑑賞に必要となる

①屏風の基礎知識（歴史、特徴）、②屏風の絵画表現等について、当館学芸員が分かりやすく説明します。

- ・また、展示会場において、

③実際の展示作品の見どころも解説いたします。

（講師）

当館学芸員

主任 戸田 浩之

福井県立美術館  
(県立藤島高校前)

福井市文京3-16-1  
TEL 0776-25-0452